

ブーン系小説に関する基本的考察

— 視覚要素としてのアスキーアートと〈共有〉される小説の構造 —

角 屋 瑛 蘭

一 はじめに

「ブーン系小説」は、2005年頃（註1）に2ちゃんねる（現・5ちゃんねる）内の掲示板「ニュース速報VIP板」で発生した小説の一形態である（註2）。

その最大の特徴は本文中に貼り付けられたアスキーアート（以下AA）（註3）である。ブーン系小説は2ちゃんねる内で認知されたAAキャラクターを登場人物として借用することにより、読者の作品理解を補助しつつ、既存のキャラクターイメージを流用可能という点で作者のスムーズな執筆を促進していた。2ちゃんねるでしか味わうことのできない小説というフォーマットを確立したブーン系小説は掲示板内で一定の人気を得ることに成功した。作者と読者がキャラクター像や活動場所を〈共

有〉することによって発展したジャンルであるといえる。ただし、ブーン系小説の一般的な知名度は極めて低い。匿名掲示板という閉鎖空間で行われた創作であり、メディアに露出した事例は確認できない。さらにAA文化自体が衰退の一途を辿っており、ブーン系小説を含むAA文学はいずれも2010年代には勢いを失っている。

古くは「ケータイ小説」、また近年では「なろう系」などが書籍化の機会に恵まれており、ウェブ小説作品が書店に並ぶ光景を目にすることも少なくないだろう。しかしブーン系小説はこれまで商業と関わることなく、インターネット空間の中で消費され続けてきた。現在の活動は小規模であるが、AAの使用をはじめとしたブーン系小説の挑戦的な試みについては詳細な分析を行う必

要があるといえる。現代文学の中でも検討の余地が特に多く残されているジャンルであり、時代に合わせて多様化していく文学の在り方を再考するきっかけとなるだろう。

本稿はブーン系小説全般を俯瞰し、AAの視覚効果をはじめとした作品本文の分析に加え、作者と読者の間で通用している〈共有〉構造の考察を試みる。

なお、この研究対象は一般に広く認知されているとは言いがたく、現時点では先行研究の存在が確認できない。そのため本稿はブーン系小説を研究の俎上に載せることで、今後の文学研究の発展に寄与することを目的とした。ブーン系小説は2ちゃんねる、ひいてはインターネット上で小説というコンテンツがどのように発展し、消費されたかを示す貴重なサンプルであると考えられる。

それと同時に、書籍や印刷物といった実体を持たない純粋な「インターネット文学」という点が重要である。書店や通販サイトを通して一般に流通する書籍とは異質な存在である電子上の小説は、現代の出版不況を受けて今後ますますその比率を増していくと想像できる。ウェブサイトやSNSを利用して個人が容易に文学を発信することが可能となった今、文学研究もまた新たな土壌を形成する必要があると考えられる。現在は廃れているとはいえ、2000年代前半という日本のインターネット

文化の初期に登場し、ウェブ空間でのみ消費されたブーン系小説についての研究は、今後ますます重要となっていくであろうインターネット文学研究の基礎を補強するという点で十分な意義があるといえる。

本稿はブーン系小説の全体的特徴を把握するため、個々の作品への過度に詳細な分析を避け、対象に見られる特徴や傾向を優先して考察を行うこととする。また、理解の前提として必要となる専門用語やインターネット文化の知識については後註を適宜参照していただきたい。

二 AAによる視覚効果

ここではブーン系小説の本文、特にAAを用いることによって発現する効果についての分析を行う。ブーン系小説で使用されるAAはそのサイズによって大きく二分することができる。会話文に用いられる「小型AA」と、それ以外の場面に登場する「大型AA」である。実際のブーン系小説作品からそれらの具体例を引用し、小説中におけるAAの影響力についてそれぞれ分析を行ってみたい。

なお、引用元はいずれも「ブーン系小説創作板（フィナル）」（註4）にて連載中の「こちら流石探偵事務所」

13: ◆KDJGUfbY2o:2022/07/30(土) 23:30:10 ID:jCAsVOFU0

(´・_・´)「あちらが本堂です」
 (´・_・´)「うん。お賽銭とこか」
 (´・_・´)「だな」
 (´・_・´)「そうっすね」
 (´・_・´)っゞ
 (´・_・´)人((依頼成功しますように)人´・_・´)
 (´・_・´)人(… 船の安全でも祈っとこっと)
 (´・_・´)人「……」

図1 3スレッド目13番目の書き込み

ブーン系小説では、発言者が明らかの場合、顔部分を抜き出したキャラクターの一行A Aが会話文の直前に常時挿入される。この一行A Aは顔の構成パーツを入れ替えるか、または別パーツを付け足すことで表情変化や簡単な動きを表すことが可能となる。たとえば図1はA Aキャラクターが賽銭を投げ、手を合わせて祈る様子を描写している。

二. 一 小型A Aの場合

(註5) による。

このように一行A Aはその視覚的効果によって該当箇所を発言・行動を行うキャラクターの外観を描写することを可能としている。しかし極端に抽象化されたA Aがな状況描写を行っているといえる。

60: ◆KDJGUfbY2o:2022/08/06(土) 19:52:26 ID:x7V4j8Ns0

(´・_・´)「——とまあそういうわけなんだが」
 (;´・_・´)「ええと…… 待って、いきなり色々言われて混乱してる」
 (´・_・´)「ですよ」
 (;´・_・´)「確かに僕もあれっ？ とは思ったんだよね……」

図2 3スレッド目60番目の書き込み

浮かべる様子が表現されている。どちらの例も地の文による説明が行われていない点に着目したい。図1では「小銭を投げた」、図2では「額に汗を浮かべた」など、本来キャラクターの動作や状態を表す文章が求められるはずである。しかしブーン系小説においては基本的にキャラクターの姿が常に表示されているため、その外観から得られる情報について必ずしも説明を加える必要に迫られない。そのためキャラクターの動作や状態に関する記述を省略し、読者の視覚に依存することでスムーズ

そして図2では、
 (´・_・´)

(盛岡デミタス)が困惑して汗を

読者の自由な想像の余地を奪うという側面を指摘することができると。

二・二 大型A Aの場合

図3は本作の主人公である「流石兄弟」(註6)がラーメンを啜っている様子を表している。ここでも図1と同様にA Aによる行動描写を行っており、登場人物の様子を視覚的に把握することが求められている。

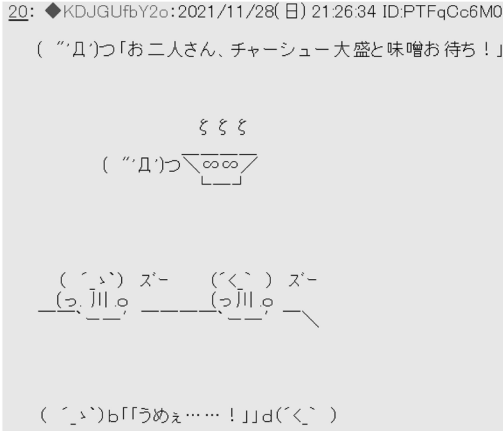
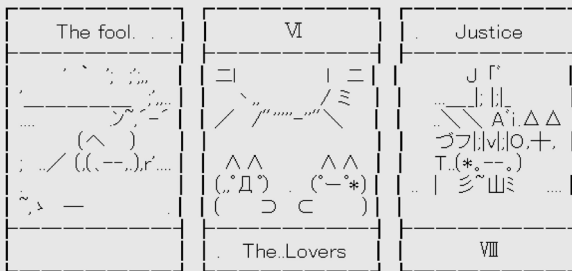


図3 1スレッド目20番目の書き込み

さらに図4では、3枚引きによるタロット占いの結果をA Aによってのみ表示している。「愚者」の逆位置、「恋人」の正位置、「正義」の逆位置という結果であるが、後に続くキャラクターのセリフでこれが語られることはない。

18: ◆KDJGUfbY2o:2022/03/26(土) 22:41:39 ID:2DO.TOX0

§§("∩")「むっ……これは……？」



§§("∩")「弟、お前まさか恋でもしたか？」

("∩")「えっ」

図4 2スレッド目18番目の書き込み

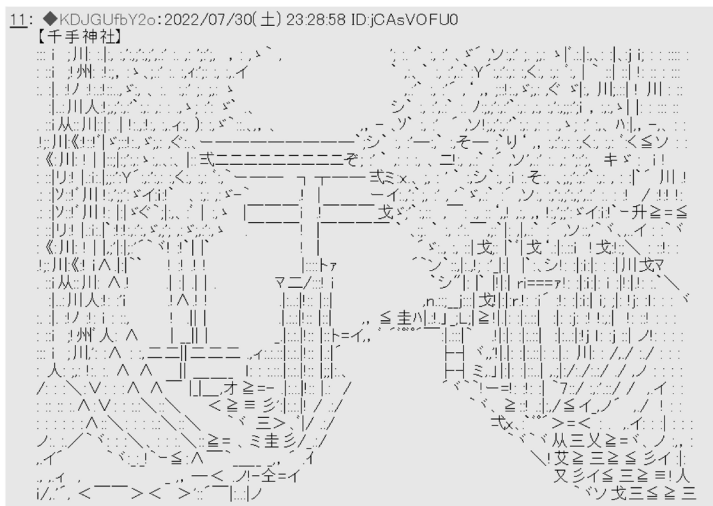


図5 3スレッド目11番目の書き込み

加えて、図5は場面転換の際に用いられたAAである。直前の場面では漁港でのシーンが描かれているが、会話や地の文による断りを入れることなくスムーズな移行を実現している。

このように、大型AAは一行AAの表現を拡張するだけでなく、さらなる視覚効果の恩恵を読者にもたらすと考えられる。キャラクターの行動や特徴的なアイテム、そして場面の切り替わりを視覚で捉えることにより、言語を伴わないスムーズな「読書」を実現しているといえるだろう。

二.三 AAによる効果のまとめ

以上のことから、ブーン系小説におけるAAは表現手段のひとつとして一定の機能が認められると考えられる。特に一行AAは本文での使用頻度がきわめて高く、ブーン系小説を象徴する構成要素として挙げることができるだろう。大型AAは従来の小説にも用いられる挿絵のような存在であるとはいえ、本文と不可分の関係にある点で大きく異なる。

その一方、文字ベースである表現手段のAAには複数の問題点があることもまた確かである。特に一行AAは省スペースという機能が表現的な制約に転じ、拡張性に欠けていると判断せざるを得ない。大型AAの場合も、現在の主流端末であるスマートフォンが縦長のディスプレイを備えていることから、作品を閲覧する際に表示が崩れて認識が困難となってしまう点が問題である。

また、AAキャラクターが可視化された状態で登場することから、読者のイメージが視覚通りに固定されるという懸念もある。これは四、一章に後述するAAの〈共有〉現象によるものと考えられる。この〈共有〉に関しては視覚的な統一が大きな役割を果たしており、外観の固定化はブーン系小説の前提条件のひとつであったと考えられる。読者の想像の余地を代償として、キャラクター造形の共通化を図った結果であるといえる。

ここではブーン系小説の外面といえるAAによる表現の効果を確認した。引き続き内面的構造についての分析を行い、両者を補完していきたい。次節ではブーン系小説が発生する直前の2ちゃんねる、またAAを取り巻いていた状況を整理し、文化的背景を考察する際の足掛かりを築くこととする。

三 ブーン系小説発生の経緯

2000年代初頭の2ちゃんねるには、ブーン系小説の前身ともいえる「ストーリーAA」（註7）が存在していた。2ちゃんねる内のAAキャラクターを登場人物として起用し、物語的な一貫性を持つ大型AAを連続的に投稿するという、漫画的側面を持つ創作形態であった。

これによりAAと文学がはじめて融合したといえる。

その画面構成については図6の「逝きのいいギコ」（註8）の例を参照されたい。

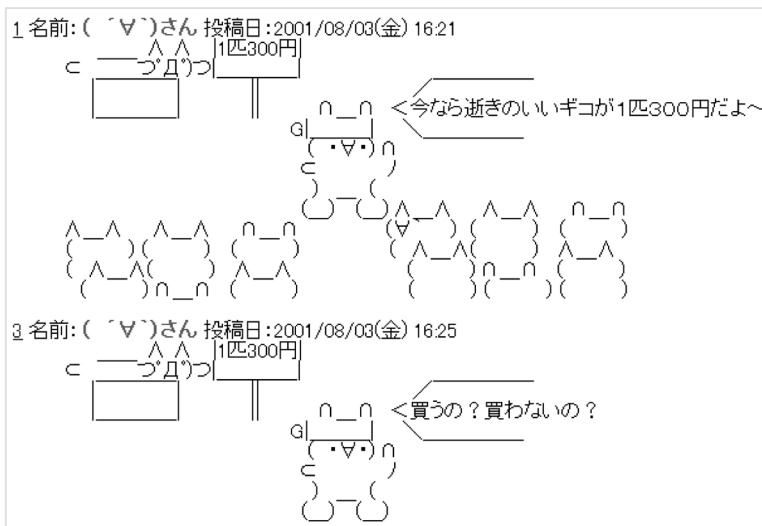


図6 「逝きのいいギコ」1スレッド目1番目の書き込み

なお、本ジャンルで使用されるAAは基本的に既存のAAを転載、あるいは改変したものである。2ちゃんねる内に投稿されたAAはすべてが新たなAAの素材として活用されており、共有財産のような存在であったと考えられる。収集したAAを分類別に公開する外部サイトが存在し、利用者は現在でも必要に応じてAAの検索およびコピーを行うことが可能である(註9)。

AAキャラクターは物語世界に取り込まれることできらなる活躍の場を手に入れたものの、次第に理不尽な暴力の標的となっていくた。

まず、愛くるしい見た目のAAキャラクターが「荒らし」(註10)の標的とされた。子犬をモチーフとしたAAキャラクター「ビーグル」の場合、悪意ある利用者によってAAが改変され、動物虐待を思わせる内容がスレッド内で繰り返し投稿されるようになり、キャラクターの健全な利用が極めて困難な状況に陥っていた(註11)。このようなAAに対する虐待行為は一向に収束せず、勢いを強めていくばかりであった。

そして先述のストーリーAAの基本形式が虐待に利用されるようになり、2002年頃に「AA虐待」ジャンルが派生する(註12)。その内容は凄惨を極めるため、本論では詳しく取り上げない。創作活動そのものが妨害の対象となり、取り扱うテーマが著しく狭小化した結

果、ストーリーAAはその勢いを急速に失った。AAの話題を扱っていた「モナー板」、「AA長編板」(いずれも註6参照)は荒らしの影響によって利用者が減少し、AA文化の中心としての機能を実質的に失った。

それらの専門掲示板に代わり、2005年頃にAAの新たな活動の場となったのが「ニュース速報VIP板」であった。VIP板は当時利用者が急激に増加しており、2ちゃんねるの主要掲示板としての地位を確立し始めていた(註13)。VIP板では新たなAAキャラクターが生成されるようになり、「ツンデレ」(註14)に加え、ブーン系小説の代表的キャラクターである「ブーン」こと「内藤ホライゾン」も、2005年2月に命名されている(註15)。

このようにAAキャラクターがかつての盛り上がりを取り戻す一方、ストーリーAAによる創作がVIP板で再び展開された痕跡は確認できなかった。大型AAによる創作は既に下火となっており、ブーン系小説が台頭する時代を迎えることとなった。

しかし、ストーリーAAおよびAA虐待が後のブーン系小説に繋がる要素を数多く育んだことは否定できない。ストーリーAAは、それまで掲示板のマスケットに過ぎなかったAAキャラクターを物語の登場人物へと昇華させたといえる。また、2ちゃんねるの利用者の間で知ら

れているキャラクターを個人がそれぞれの創作に取り込むという手法は、ブーン系小説にそのまま引き継がれたと考えてよいだろう。

A A虐待は倫理的な問題を抱えるジャンルである一方、その衝撃的な描写が以降のA Aを用いる創作全般の内容を深化させたと捉えることが可能である。註1に挙げたブーン系小説の初期作品は、多少マイルドな表現であるとはいえ、いずれもA A同士の抗争を描いており、ストーリーA AよりはむしろA A虐待に近い作風であると評価できるだろう。

以上のことから、ブーン系小説はその成立以前のA A文化の影響を受けたことが明らかである。共有財産としてのA Aキャラクターを活用し、2ちゃんねる内という閉鎖空間で消費していくスタイルは、ブーン系小説発生以前のストーリーA A・A A虐待で既に確立されていたといえる。その一方、A Aキャラクターを引き続き使用したことで2ちゃんねる文化に対する理解がコンテンツの前提条件として求められただけでなく、外部サイトへと活動の場を広げることも叶わなかった。ブーン系小説もまた過去のA A創作と同様、時代と共に先細りしていくこととなった。

これらの内容を踏まえ、次章ではブーン系小説が発展させた〈共有〉構造についての考察を行う。

四 ブーン系小説の〈共有〉構造について

当時の2ちゃんねる・ニュース速報VIP板はスレッドの新陳代謝が活発であり、小説作品を発表する媒体としては本来不向きな掲示板であった(註16)。その一方、ブーン系小説は電子掲示板という場の性質に特化する形で独自の発展を遂げた。その背景には作者・読者間の協力によって成立した〈共有〉の構造があり、それ以前のストーリーA Aではみられなかった要素を見出すことができる。ここでは4つの項目からその〈共有〉構造に迫りたい。

四. 一 〈共有〉されるA A

ブーン系小説は使用可能なA Aキャラクターを羅列し、「A Aテンプレ」としてテンプレート化している点特徴である(図7)(註17)。A AテンプレはVIP板の利用者にとっては馴染み深いA Aキャラクターが揃っており、後述の「総合案内所」スレッドを用いて作者・読者に周知された。同一のキャラクターがあらゆる作品に使用されるため、A Aテンプレは実質的な登場人物一覧として機能している。

5 : 以下、名無しにかわりましてVIPがお送りします。:2008/12/31(水) 11:14:36.71 ID:mE5eJQI60
 【AAテンプレその1】

(^ω^)内藤ホライゾン (ε°Δ°)ε ツンデレ(A°ドクオ 川°-)素直クール (°*ε&デレデレ
 (°▽°)gジ・ジョルジュ長岡 /ハ°Δ°)素直ヒート (°ω°)ショボン (°ω°)シャキン
 (°▽°)モナー (°▽°)モラー (°Δ°)ギコ猫 (*°)しい (*°▽°)つー (#;°)でい
 / / 3 荒巻スカルチノフ ミ、Δ°ジフサギコ (°、い) 兄者 (< >) 弟者
 (*°ω°*)ちんぽっぽ (> <) わかんないんです=ピロード (< ● > < ● >) わかってます
 < °▽° >ニダー J(°、い) し かーちゃん (°Δ°)アキアエタカラ? *(°)キヘリカル沢近 川Δ川貞子
 (°▽°)百藤またんぎ (—)ヒッキー (°ー) シラネヨ (°ω°)いよう (°Δ°)こっちみんな
 从°从 渡辺さん (、°)川ベニサス伊藤 从°从 ハイソリッヒ高岡
 (ΦωΦ)杉浦ロマネスク(°)ピコース (°ヨ)クックル kw-_-ノ素直シュール
 ※ショボンはショボン、ツンデレはツン、デレデレはデレ、ハイソリッヒ高岡はハイソ、
 素直クール・ヒート・シュールはそれぞれクー・ヒート・シューと書かれることが多い。

図7 「AA テンプレその1」

6 : 以下、名無しにかわりましてVIPがお送りします。:2008/04/11(金) 00:17:36.51 ID:chCKQY5S0

(°▽°)「ふん……俺に逆らうなんざ2, 3年早いんだよ」
 J(°ー)「ちくしょう! あと2, 3年経っていいわば!」
 その時である。

「待ちな」
 (; °▽°)「だ、誰だ! ?」

男が見上げた先、木の枝にコアラのようにしがみついている男がいた。

(^ω^)「貴様の悪事、見逃してはおけんお」

図8 「ブーンはイケメンのようです」 6番目の書き込み

23 : 以下、名無しにかわりましてVIPがお送りします。:2007/09/04(火) 00:29:53.53 ID:v5k2CSAF0

(A°)「—」「やっ! タバコはやめられねえよ」
 (^ω^)「そもそもタバコのどこがおいしいんだお?」
 (A°)「—」「カッコいいところ」
 (^ω^)「それは錯覚だお」
 (A°)「—」「夕日が似合う男! になれるとこ」
 (^ω^)「それも錯覚だお」

図9 「ドクオが禁煙するようです」 23番目の書き込み

続いて、同一のAAキャラクターが複数作品で使用された実例を確認したい。ここではブーン系小説のメインキャラクターである「ブーン」こと「内藤ホライゾン」の例を引用する。

図8は「ブーンはイケメンのようです」(註18)から、図9は「ドクオが禁煙するようです」(註19)から引用した。「ブーンはイケメンのようです」の場合、ブーンが常識の通用しないイケメンであることや、それゆえイ

ケメン同士の理不尽な闘いへ身を投じることになる点が独自の設定となる。一方、「ドクオが禁煙するようです」に登場するブーンはドクオ（註20）の禁煙を成功させるため奔走する健気な友人としての役割が与えられている。

一方、いずれの作品もブーンは語尾に「お」を付けるキャラクターとして出現しており、AAも共通である。これらはブーンが持つ基本的な設定であり、作品ごとの差異が生じづらい〈共有〉されたイメージであるといえる。作者および読者はこのイメージに従い、キャラクターへの理解をあらかじめ深めた状態で作品を制作、あるいは受容することとなる。

既存のキャラクターを利用するという点において、ブーン系小説は二次創作のような側面を持っている。しかし不特定多数の2ちゃんねるユーザーによって共同で創造されたAAのキャラクター像には「原作」となる権威が存在しない。そのため詳細な設定は作者の裁量に委ねられており、作品によってある程度の「揺らぎ」が生じることとなる。キャラクターの基礎となる〈共有〉された要素は、読者の理解を促すだけでなく、作品ごとに生まれる差異を強調する効果を発揮するとも考えられる。

AAの〈共有〉はブーン系小説のアイデンティティと

もいえる要素であるが、同時にキャラクター造形という文芸創作のオリジナリティを損なう制約ともなっている。作者と読者が一定の共通認識を形成していることが前提となっていたため、新規参入のハードルを引き上げたと考えられる。

あらゆる作品に共通するキャラクターの基本的造形も、AAキャラクターを初めて目にする、あるいはブーン系小説を初めて読むという読者層には把握することができない。同じジャンルの作品を読み続けることによつてようやく身に付けることができる知識であり、この点も初心者にとっては不親切な構造であったといえる。AAキャラクターについては最低限の知識を持っていた2005年当時のニュース速報VIP板の利用者を読者として当初想定したために、その後の読者層が限定されたという点が否定できない。

このような問題点を抱えながらも、奇妙なAAキャラクターを登場人物として使用し、既成のイメージに従うという制約のもとで物語を組み立てていくブーン系小説は、他ジャンルと比較しても技巧的な特徴を持っているといえるだろう。

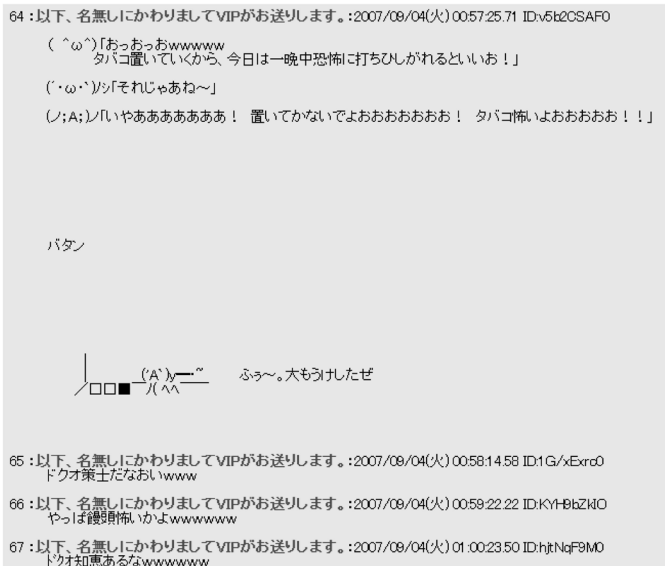


図 10 「ドクオが禁煙するようです」64 番目の書き込み

図10は先ほど確認した「ドクオが禁煙するようです」のスレッド中から、作者の書き込みと読者による反応をまとめて引用したものである。物語中でドクオは「たばこを吸いたくなくなる」という催眠術にかかったふりをして友人を欺き、結果として大量のたばこを入手した。読者の反応としては、機転を利かせたドクオを称賛する書き込みのほか、落語の演目「まんじゅうこわい」と類似した展開であることを指摘するものがみられる。

一般的に小説作品への感想や意見をインターネット上で発信することは珍しくない。しかしブーン系小説においては、同じスレッド中に作者と読者が同時に存在し、リアルタイムで物語の進行に立ち会うことはもちろん、読者の反応を得ることも可能であった。もちろんブーン系小説に関心を持たない利用者もスレッドに書き込むことが可能であったため、常に「荒らし」による妨害を受ける危険に晒されるなど、2ちゃんねるの仕様上改善不可能な問題点を抱えることにも繋がっていた。

このことから、ブーン系小説作品のスレッドでは作者と読者が時と場を〈共有〉しているといえる。作品発表の場が交流の場となりうることに加え、読者は物語本文だけでなく他者の反応を同時に目にすることから、読書体験の拡張が行われているとも考えられる。作者と読者、あるいは読者と読者の距離は、スレッド上において

限りなく接近していたといえる。

こうした機能性を持つスレッドであるが、掲示板の円滑な利用を促進するため、時間経過によって閲覧や書き込みが不可能となる仕様が存在した(註16参照)。そのため後述する「まとめサイト」によって保存・公開が行われていた。

四・三 「総合案内所」の存在

先ほど取り上げた投稿用のスレッドとは異なり、ブロン系小説には利用者同士の交流や練習を目的とするスレッドが存在する。基本的に「ブロン系小説練習&イラスト総合案内所のように」といったタイトルでスレッドが作成されるため、「総合案内所」と呼ばれている。

総合案内所では冒頭に外部リンクへの案内や先述のA Aテンプレが投稿され、以降は利用者の雑談や小説・イラストの練習の場として活用される。「お題」を募集し、総合案内所のスレッド内で短編小説が投稿されることもあった。VIP板で誕生して以来、現在でも継続してスレッドが作成されており(註21)、利用者の活動拠点として〈共有〉されていると考えられる。

初期のブロン系小説は専門の掲示板を持っておらず、専らニュース速報VIP板の一角を「間借り」すること

で存続していた。しかし作品の発表が相次ぎ、一ジャンルとして成熟していくにつれ、総合的な話題を取り扱うスレッドの需要が次第に高まっていったと考えられる。こうした背景から総合案内所が発生し、VIP板におけるブロン系小説利用者の勢力を確保したといえるだろう。

現代のインターネットであればSNS上にコミュニティグループを設立するなど、外部サイトを利用した活動場所の形成が可能なはずである。総合案内所がブロン系小説の初心者を受け入れる機能を果たしているとすれば、外部への積極的な展開がみられなかった点が衰退の一因となっているとも考えられる。ただし2006年というSNSが一般に広く普及する以前の段階で、一定の交流が行われるコミュニティを形成することに成功したという点からは先進性を見出すことができる。

四・四 小説作品と「まとめサイト」

ブロン系小説における「まとめサイト」とは、作品の編集・保存・公開を担う外部サイトを指す。小説作品をスレッドで閲覧する場合、複数の課題が発生する。まとめサイトはそれらの問題を解消し、読者の快適な閲覧をサポートする役割を果たしている。ここではまとめサ

イトが行う編集や、それによって変化する作品の取り扱
いについて分析を行う。

まず、2ちゃんねる掲示板のスレッドは時間経過に
よって閲覧不可となる特性を持っていた(註16参照)。

そのためまとめサイトはスレッドを保存し、その内容を
ウェブページ、あるいはブログエントリとして一般に公
開していた。これにより読者は作品投稿の瞬間に立ち会
わずとも内容を読むことが可能となり、より多くの作品
が読者の目に触れるようになったと考えられる。特に複
数のスレッドを跨いで長期的に連載を行う長編作品の場
合、まとめサイトによるバックアップは必須であったと
いえる。

さらに、快適な閲覧のためスレッドに散らばる雑然と
した情報を整理する必要があった。スパム行為(註22)
の痕跡はもちろん、誹謗中傷や冷やかしを目的とする書
き込みは削除の対象となった。物語本文も話数によって
ページを分割するなどの編集が行われた。引用元スレッ
ドにはない目次を新設し、トップページを設けるなどの
最適化が図られることもあった(註23)。

以上のことから、ブーン系小説はまとめサイトによる
編集を経てひとつの作品として完成するといえる。ス
レッドに投稿された時点では、あくまで作者とその場に
居合わせた読者のみが作品に触れる機会を得るに過ぎな

い。投稿を見逃した読者、あるいは再読を希望する読者
など、あらゆる利用者に向けて作品を公開し、利用者全
体での作品の〈共有〉を実現するのがまとめサイトの役
割であるといえる。

ただし、現在のブーン系小説まとめサイトの果たす役
割は、決して大きいものとは言えない。現在の活動拠点
である「ブーン系創作板(ファイナル)」は600以上
のブーン系小説スレッドを保持しており、2016年以
降のスレッドが現役で残っている上、過去ログ倉庫への
アクセスも問題なく可能である。このためまとめサイト
の目的のひとつであった「作品の保存」の必要が薄れて
いる。またブーン系小説の作者・読者のみがアクセスす
る掲示板ということもあり、荒らしをはじめとした不要
な書き込みが発生しない点も編集の必要性を低下させ
ている。現在のまとめサイトは既存作品のページ分割な
ど、快適な閲覧のための最低限の作業を行っている。し
かし転載元スレッドとまとめサイトにログを分散させる
ことは、現在においても作品の消失を防ぐための最も重
要な手段であるといえる。

五 まとめ

以上、ブーン系小説の基本的考察を行ってきた。読

者の目に最初に触れるという意味でコンテンツの外面となるA Aのほか、作者・読者のコミュニティが作り出してきた内面となる（共有）の構造に迫ることにより、インターネット文学ならではの既存の小説に縛られないA Aなどの表現方法や、作者・読者の知識に依存する閉鎖的な創作形態の問題点に迫ることができた。

全体を通して2ちゃんねるの仕様およびA A文化の影響が色濃く表れており、その結果としてブーン系小説の独特なフォーマットが形成されたことがうかがえる。

一方で作品単位での分析のほか、他分野との比較については多くの課題を残している。既存の小説ジャンルとの関連からブーン系小説の位置付けを行うことにより、現代の文学の在り方についてのより詳細な検討が可能になるはずである。

ブーン系小説の発生から17年が経過した現在、かつて運用されていたまとめサイトの閉鎖・リンク切れが多発しており、収録作品の散逸が進行している。決して長い歴史を持つとは言えないコンテンツでありながら、既に失われた部分が存在するといえる。作品を保管する役割を担っていたまとめサイトが皮肉にも消失したという事実は、広くインターネット文学の研究に十分な猶予が与えられないことを示している。

2005年というA A文化の爛熟期、またニュース速

報VIP板の登場という2ちゃんねる文化の黄金期に出現したブーン系小説は、当時のインターネットユーザーが最先端の文化を消費した有様を示す記録であると同時に、現在も変わらないスタイルの創作形態を維持しているという「生きた化石」とも呼べる存在である。かつての勢いを取り戻すことは非常に困難であると言わざるを得ないが、各種資料が閲覧不可となるまでにその文学的価値が見出され、ブーン系小説の存在が未来のインターネット文学研究の礎となることを願うばかりである。

[注]

※リンク先はいずれも2022年8月19日参照

註1 2005年9月に「ブーンが記憶喪失になったようです」(<https://ex11.5ch.net/test/read.cgi/news4vip/1128088314>) が投稿された。この作品は「ブーン」の発言部分にのみA Aが挿入されており、現行の作品とは形式的に異なる点が多い。なお、同年末には様々なA Aキャラクターを本文中に挿入した「ブーンがギャングスターになったようです」(<https://ex14.5ch.net/test/read.cgi/news4vip/135770158/>) が投稿された。ブーン系小説の基本的なスタイルは2005年時点で確立されたといえる。

註2 ブーン系小説が勃興した「ニュース速報VIP板」(通

称VIP)は、2004年6月の開設以来、その自由度の高さから多くの利用者を集めた2ちゃんねる内の掲示板のひとつであった。雑談や議論、創作に至るまで、2ちゃんねるユーザーが求める幅広い話題をカバーしていた。

註3 アスキーアート(AA)とはコンピュータ上で使用可能な文字や記号のみを使用して表現されたイラスト状の視覚効果である。

註4 「ブーン系小説創作板(ファイナル)」(<https://jpbs.shitaraba.net/internet/21864/>)は、ブーン系小説を専門に取り扱う掲示板であり、現在主要な活動拠点として活用されている。

註5 「こちら流石探偵事務所」は、ブーン系小説創作板(ファイナル)にて連載中の長編小説である。探偵業で生計を立てる「流石兄弟」(註6参照)を主人公とし、推理とオカルトホラーを組み合わせたストーリーで人気を集めている。

(<https://jpbs.shitaraba.net/bbs/read.cgi/internet/21864/1638101622/> 1スレッド目)
 (<https://jpbs.shitaraba.net/bbs/read.cgi/internet/21864/1648136222/> 2スレッド目)
 (<https://jpbs.shitaraba.net/bbs/read.cgi/>

[internet/21864/1658664818/](https://jpbs.shitaraba.net/bbs/read.cgi/internet/21864/1658664818/) 3スレッド目)

註6 流石兄弟は、「兄者」と「弟者」からなる兄弟設定のAAキャラクターである。初出は2002年9月7日の書き込み(<http://aa.5ch.net/test/read.cgi/mona/102376875/>)。母者、父者、姉者、妹者といった家族も存在する。「こちら流石探偵事務所」は兄者と弟者を主役として採用しており、他の家族も登場している。

註7 「ストーリーAA」(『AA長編作品』とも)は、物語としての連続性を持つ大型AAを貼り付ける創作形態、またその作品である。AAを専門に取り扱う2ちゃんねる内の掲示板「モナー板」にて2000年頃に発生した。モナー板は2ちゃんねる発のAAキャラクター「モナー」をはじめとしたAA関連の話題を総合的に扱うことを目的に2000年6月に設立された。2002年2月にはストーリーAAを専門に取り扱う「AA長編板」が派生している。

註8 「逝きのいいギョ」(<http://monahokan.web.fc2.com/monadouwa/ikinoii-giko/001.htm>)はストーリーAA作品のひとつである。引用した第一話では、売値の300円にまったく及ばない小銭を渡してきた子供にそのままギョを売ってやるというエピソードが描かれている。心温まるストーリーと、未知の生物であるAAキャラクターの生態を描くシュルレアリスムが両立する作品であ

る。

註9 「A A集積場・転載自由なアスキーアート検索」(<http://azeta.jp/>)では膨大な数のA Aを20のカテゴリに分類しており、いずれも自由に転載可能なコンテンツとして公開している。

註10 「荒らし」とは、主にインターネット上のコミュニケーション空間で妨害行為を行うこと、またそれを行う者を指す用語である。

註11 「ビッグル」初出スレッドが現存する (<https://piza.sch.nev/test/read.cgi/mona/985771157/>)。当初はビッグルの可愛らしいA Aが作成される平和なスレッドであったが、スレッド作成から10日ほどでビッグルに虐待を加える「荒らし」が発生する。レス番号178以降、それらの行為を肯定する「虐待派」と、平和な「まったり」を望む「マタリ派」が論争を繰り返す様子も確認できる。このようにA Aキャラクターを取り扱うスレッドは、内部自治の過熱と荒らしの妨害により進行が困難となっていた。

註12 「A A虐待」の作品も有志によりアーカイブされている。
(<http://astar.fc2web.com/menu.htm>)

閲覧の際には注意されたい。当ジャンルは力を持たないA Aキャラクターに対する一方的な暴力、または天災による理不尽な死が主要なテーマであった。

註13

「ニュー速VIP板の書き込み数」(<http://merge.geo.jp/history/board/news4vip/>)によると、2004年は設立からの半年間で約711万件の書き込みを記録している。一方で2005年の年間書き込み数は6312万件に上り、続く2006年には1億2000万件を超えたことが示されている。

註14

△「ツンデレ」は2005年9月14日、ニュース速報でVIP板のスレッド「そろそろツンデレの絵文字を決めようぜ」(<https://ex11.sch.net/test/read.cgi/news4vip/1126649765/>)にて誕生した。ブーン系小説においては「ツン」と呼ばれており、その性格は一般的な「ツンデレ」と一致する。ブーンこと内藤ホライゾンの恋人役として登場することが多い。性格や立場が既におおまかに決定されていることから、非常に扱いやすいキャラクターといえる。

註15

ω「内藤ホライゾン」は2005年2月7日、ニュース速報VIP板のスレッド「こいつの名前なに？」

(<https://ex7.sch.net/test/read.cgi/news4vip/1107754878/>)にて命名された。「ブーン」と声を発しながら両腕を広げて走り回るA Aが印象的であり、愛称として「ブーン」の名も定着している。内藤ホライゾンはVIP板の象徴

として扱われ、ブーン系小説においても彼が主役を務める作品は数多い。

注16 ニュース速報VIP板は新規スレッドが次々と作成されるため、保有上限数を超えた既存のスレッドが最後の書き込みからわずか数時間で過去ログ倉庫へと転送されることも珍しくない。スレッドが一覧から消滅し過去ログとなる現象は「スレが落ちる」「スレ落ち」などと呼ばれる。過去ログを閲覧するには特別な権限が必要となるため、一般利用者にとっては厳しい状況であった。

注17 「ブーン系小説練習&イラスト総合案内所のようにす」(<https://takeshima.sch.net/test/read.cgi/news4vip/1230689600/>)より。引用したスレッドのAAテンプレは現在と同様。「その1」「その2」「その3」を備える構成になっている。AAテンプレは段階的に発展しており、2006年5月頃に出現した当初はAAの数も少なく、呼称も「顔文字テンプレ」となっていた。

参 考：(<https://ex14.sch.net/test/read.cgi/news4vip/1148651443/>、7番目の書き込み)

注18 「ブーンはイケメンのようです」(<https://yutori.sch.net/test/read.cgi/news4vip/1207840161/>)

注19 「マクオが禁煙するようです」(<https://wwwwww.sch.net/test/read.cgi/news4vip/1138832199/>)

注20 (A)ドクオはAAキャラクターのひとつである。2ちゃん

ねる「独身男性板」で定着したことから「独男」、「ドクオ」、「毒男」などの名称が与えられた。その名の通り当初は独身男性の哀愁を帯びた姿を表すAAであったが、汎用性の高さから様々なバリエーションが製作された。ブーン系小説においてはブーンの友人として登場することが多い。

注21 現行の総合案内所はブーン系創作板(ファイナル)にて確認できる(<https://jbs.shitaraba.net/bbs/read.cgi/interne/21864/1651368564/>)。

注22 スпам行為とは、インターネット上のコメント欄や掲示板、あるいは電子メールを通して不特定多数に向け悪意ある情報を発信する行為を指す。2ちゃんねる上でも個人情報漏洩のリスクを抱えたURLや詐欺サイトへのリンクが投稿されることがある。

注23 「オムライス@ブーン系小説まとめサイト」にまとめられた「ブーンがああ的事件に挑むようです」(<http://vipmain.sakura.ne.jp/end/197-top.html>)の場合、トップページに目次が追加され、本編の各話や元スレッド、また作品に寄せられたイラストへのリンクが集められている。

本稿は2021年度尾道市立大学日本文学会大会での口頭発表に基づくものである。学内外より貴重なご意見・ご指導を賜っ

た。ここに深謝の意を表する。

—かどや・えらん
日本文学科四年生—